

What difficulties do international freshmen experience after entering Kyoto Seika University in the early part of their first year?

According to the results of the First Year Survey of 2018
by Seika's Japanese Learning Support Room

KOSHIBA Yuko

MAJI Maki

Given the growing numbers of international students in recent years at Kyoto Seika University, our Japanese language support room was created in April 2018 in order to provide specialized linguistic support.

This paper reports on the results of a questionnaire survey investigating the situation of international students, mainly freshmen, who are taking Japanese language classes in Kyoto Seika University. As found by this survey, most of them are satisfied with their college life, and don't have language problems in their daily lives. However, we found some scope for improvements in relation to their needs for further language support for their studies, some requests for assistance connected with specific courses, and their wishes to have more opportunities to communicate with Japanese students as well. To implement such changes, we make various proposals regarding Japanese courses and the schoolwork system. Teachers and staff members of our university should carefully consider these students' opinions. In addition, we need to improve our Japanese language support room so that international students are more comfortable at the university and can concentrate more fully on their studies here.

Hopefully this survey will help us to achieve the multicultural coexistence that our university is aiming for.

京都精華大学入学後の留学生たちが 1年次前期に直面する諸課題とは

——日本語学修支援室 2018 年前期調査の結果をふまえて——

小柴裕子 KOSHIBA Yuko
馬路麻希 MAJI Maki

I. はじめに

本学の留学生数は増加傾向にあり、2012年には190名であったが、2018年には365名となり、学生全体に占める割合も12%となった。留学生の国籍も多様であり、韓国、中国、台湾、インドネシア、ノルウェー等17ヶ国に及び、彼らの抱える背景、目的、課題もまた多様であると言える。

このような現状から、本学では2018年4月に日本語学修支援室が開設された。留学生の学修面を中心とした支援、また日本人学生との交流活動に取り組んでいる。4月から3ヶ月間の来室者数はのべ169名¹である。今後更に多くの学生を受け入れられるように支援を充実させていく必要がある。

日本語学修支援室が開設されたことを機会に、本学における留学生の日本語学修に関する調査を行った。

II. 調査目的

本学には5学部（芸術学部・デザイン学部・マンガ学部・ポピュラーカルチャー学部・人文学部）で309名、大学院4研究科（芸術研究科・デザイン研究科・マンガ研究科・人文学研究科）で56名、合計365名の留学生が在籍している。そのうちの特に1年次の学生が直面する生活・修学上の現状と課題を把握することが目的である。

Ⅲ. 調査方法と内容

調査期間は2018年の5月から7月までの3ヶ月である。アンケート調査の回答を元にインタビュー調査を行った。調査対象は必修科目〈日本語1〉7クラス（112名：1年生111名；2年生1名）である。

アンケートは、〈日本語1〉の授業時間を利用して、2018年5月9日に実施した。アンケート内容の構成は、1) 学習について、2) 生活について、3) アルバイトについて、4) 生活費について、5) その他の5つから成る。

- 1) 学習について：日本に留学した理由、日本語能力、日本語の勉強の様子を問い、学習状況、日本語能力の自己評価を確認した。
- 2) 生活について：生活の中での困ったこと、また相談する人の有無等を問い、どのような問題を抱えているか、また誰に相談しているかを確認した。
- 3) アルバイトについて：就業上のルールやトラブル、困っていること等、アルバイト状況を確認した。
- 4) 生活費について：学生の金銭感覚や実際の使い方を確認した。
- 5) その他：本学に入学した感想、期待すること等記述式で確認し、具体的なコメントを拾った。

インタビューは、アンケートで「相談する人がいない」と選択した学生、また日本語学修支援室に来室がない芸術学部の学生を中心に8名に実施した。

Ⅳ. 調査結果

1. 学習について

①来日目的

好きな専門を学べるから	72
日本の大学に行きたかったから	12
日本文化が好きだから	12
見聞を広めたいから	9
何となく・無回答	7
日本で就職したいから	7
日本語を習得したいから	4

「好きな専門を学べるから」72名、「日本の大学に行きたかったから」12名、「日本文化が好きだから」12名と、目的意識を持って来日した学生が多いことがわかる。一方、「何となく・無回答」7名と動機が弱い学生もいることが明らかになった。

②日本語能力の自己評価

	よくできる	まあまあできる	どちらともいえない	あまりできない	全然できない
日常的な会話をする	21	81	13	1	1
授業の教科書を読む	30	71	12	4	0
論文やレポートを書く	5	47	38	21	2
専門について議論する	6	27	40	34	5
講義・授業を理解する	27	63	21	6	0

「日常的な会話をする」「授業の教科書を読む」「講義・授業を理解する」では、比較的「よくできる」「まあまあできる」を選択する学生が多かったが、「論文やレポートを書く」「専門について議論する」では「あまりできない」「全然できない」を選択する学生が多かった。日本語学修支援室でも、レポートのチェックや、発表の練習のために来室する学生が増えている。大田（1996、2000）が Cummins（1989）の BICS（Basic Interpersonal Communicative Skills）と CALP（Cognitive Academic Language Proficiency）を「社会生活言語」「学習思考言語」と訳し、生活で使う言語能力と学習で使う言語能力に違いがあることを説いているように、「日常的な会話をする」ことはできても、論理的に「書く」「議論する」能力は別次元と言える。

③日本語の勉強について（複数回答）

特に問題がない	71
適切なレベルのクラスがない	7
授業とのスケジュールが合わない	4
勉強する暇がない	12
自分で勉強している	17
日本語の勉強をあきらめた	3
もっと勉強したい	3
その他	7

日本語の勉強で「特に問題がない」と回答する学生が71名と多かった。しかし、「勉強する暇がない」12名、「適切なレベルのクラスがない」7名、「もっと勉強したい」3名と回答する学生もいるため、彼らのニーズに応えるサポートは必要である。また、「日本語の勉強をあきらめた」3名に関しては、深刻なケースも考えられるので、より注意が必要である。

2. 生活について

①困っていることの有無

はい	44
いいえ	79

困っていることの有無に関して「はい」と回答した学生が44名、「いいえ」と回答した学生が79名となった。一見、困っている学生は少ないような結果となったが、個別でインタビューすると「いいえ」と答え

ていた学生も、いろいろ抱えていることがわかった。家賃や日常生活に関するささいな問題であったが、アンケートだけでは見えない潜在的な部分を探る示唆となった。

②困っている内容 (複数回答)

日本語が不十分な為、買い物等が思うようにできない	13
物価が高く、生活が苦しい	34
日本の食生活に慣れない	15
日本人の友人ができない	26
いいアルバイトができない	20
その他	20

「物価が高く、生活が苦しい」34名、「日本の食生活に慣れない」15名といった生活上の問題のほかに、「日本語が不十分な為、買い物等が思うようにできない」13名、「い

いいアルバイトができない」20名といった日本語能力の問題も確認できる。人間関係の問題とも言える「日本人の友人ができない」が26名であることの原因の一つとして、インタビューした中には、「日本人と同じクラスであってもグループが分かれている」という回答があった。

③困ったことの相談先 (複数回答)

学生サポーター	11
学内の日本人の友人	20
学内の留学生・外国人の友人	64
学外の日本人の友人	12
学外の留学生・外国人の友人	28
指導教員	11
その他の教員・職員	7
母国の友人・家族	53
日本にいる家族	4
相談する人がいない	7
その他	3

「学内の留学生・外国人の友人」が64名、「母国の友人・家族」53名、「学外の留学生・外国人の友人」28名と、留学生同士または家族に相談しているケースが多かった。一方、「相談する人がいない」7名にインタビューしたところ、「その時は友達がいなかったが今は大丈夫」「もともとあまり人に相談しない」という回答であった。

④相談窓口の利用有無（複数回答）

学生支援チーム	44
国際交流チーム	49
キャリア支援チーム	1
学生相談室	3
日本語学修支援室	0

留学生の相談窓口として5つの機関がある。それぞれの主たる業務は、学生支援チームでは学生生活における相談全般や日本人学生の奨学金申請手続き、国際交流チームでは留学生支援や海外留学の相談、キャリア支援チームでは就職活動支援、学生相談室では学生生活や学修に関する相談、日本語学修支援室では留学生の学修支援や

留学生と日本人学生の交流活動である。

国際交流チームの利用が49名、学生支援チームの利用が44名と多かった。一方、日本語学修支援室は2018年4月に開室したばかりであるため、アンケート調査の当該時点では0名となっている。

⑤相談窓口利用者の満足感

満足した	54
どちらでもない	20
満足していない	0

相談窓口利用者の中で「満足していない」と回答した学生は0名であったため、相談窓口は相当程度機能していると言える。

⑥カウンセリングの希望について

受けようと思う	49
受けようと思わない	64

悩みがあった際、カウンセリングを希望している学生は49名、希望していない学生は64名であった。4割強の学生がカウンセリングを希望していた。

⑦カウンセリングを希望しない理由（複数回答）

信用による問題	5
言語による問題	7
時間による問題	11
自己解決できる	40
相談相手がいる	15
受け方がわからない・知らなかった	6
行くほどではない	10
その他	4

カウンセリングを希望しない理由に「信用による問題」があるが、これは中国や韓国ではカウンセリングに対する偏見や抵抗がまだあることが考えられる。「時間」「言語」「受け方がわからない・知らなかった」という理由に対しては、今後体制の整備が望まれる。

⑧日本企業への就職希望有無

はい	97
いいえ	25

日本企業への就職を希望する学生は97名となり、希望しない学生25名を大きく上回った。一方、昨年度の留学生就職実績は、卒業生31名のうち就職9名（うち日本企業5名）、進学2名、その他20名となっている。日本企業への就職希望が増えている傾向から、今後本格的な留学生へのキャリア支援が望まれる。

⑨受講クラスの出席状況

今学期、ほぼ毎回出ている	108
今学期、たいてい出ている	15
今学期、あまり出していない	0
今学期、ほとんど出していない	0
今学期、登録したが一度も出していない	0

「今学期、ほぼ毎回出ている」と回答した学生は108名と大多数であった。日本語能力に問題を感じていても、授業への積極的な参加がうかがえる。

⑩クラスに出席していない人の理由

専門の勉強で忙しい	6
日本語がわからない	2
授業の内容が合わない	3
その他	16

クラスに出席していない理由からは、「日本語がわからない」2名といった日本語能力の問題があった。「専門の勉強で忙しい」6名との回答からは、余裕のない様子もうかがえる。

3. アルバイトについて

①日本でのアルバイト経験

現在している	14
以前したことがある	20
したことはないが、探している	27
したことがない	60

アルバイトを「したことがない」学生は、「したことはないが、探している」学生を含め87名と大多数であった。

②就労条件や規則について

知っている	91
知らない	26

前項でアルバイトを「探している」学生は27名いたが、入管規則²を「知らない」学生が26名いることがわかった。本学では、4月初旬に実施しているオリエンテーション時に入管規則について説明し、長期休暇前にも本学学生専用の学生生活支援総合サイト「セイカポータル」を通して情

報発信を行っている。さらに、本学のホームページ上で「資格外活動（アルバイト）許可」についての情報を確認することができる。通常、アルバイト先で許可証の提出を依頼されるので、「知らない」と答えた 26 名は、未就労者であると考えられるが、今後就労条件や規則についての周知徹底を図る必要があると言える。

③仕事内容

飲食店	7	コンビニ	1
ホテルの清掃	4	看護助手	1
スーパーのレジ	2	薬局	1
書店	1	免税店	1
テーマパーク	1		

アルバイト経験のある 34 名の仕事内容は、サービス業が多いことがわかった。いずれの職種も比較的高い語学力を条件としていないことから、語学力を活かしたアルバイトには就いていないと言える。

④目的（複数回答）

アルバイトをしなければ生活ができない	13
社会勉強のため	32
生活にゆとりがほしい	42
その他	14

「アルバイトをしなければ生活ができない」学生も 13 名いることがわかった。奨学金申請の可能性など、解決法を検討していく必要があると思われる。また、アルバイトをする目的については、生活

費のためというより「社会勉強」や「生活にゆとりがほしい」と回答する学生が目立った。

⑤アルバイトで困ったことの有無（複数回答）

なし	11
方言	18
敬語	29
社会常識	12
人間関係	14
その他	4

「アルバイトで困っていることがない」学生 11 名に対し、「困っていることがある」学生は 73 名いることがわかった。その理由としては、「敬語」「社会常識」「人間関係」などと選択している。学生にとって、文化理解を深めたり、社会マナーを学んだりする機会は不足していると考えられる。

⑥アルバイトをしていない理由（複数回答）

アルバイトをしなくても生活できる	24
いい仕事がない	14
やりたいが時間がない	47
その他	33

「アルバイトをしなくても生活できる」学生が24名いることがわかった。その一方、「やりたいが時間がない」を選んでいる学生が多くいた。

4. 生活費について

①留学費用の出所（複数回答）

奨学金	7
自己負担（自分）	9
家族からの送金	108
その他	2

留学費用の出所は、主に「家族からの送金」であり、現在奨学金をもらっている学生は、回答者中7名であった。

②支出内訳

単位：万円	2未満	3未満	2以上～4未満	3以上～5未満	4以上	5以上～10未満	10以上
家賃		13		46		26	1
食費	15		52		19		
娯楽費	46		24		4		
その他	40		11		2		

生活水準のばらつきは大きくないが、1ヶ月の食費が2万円未満の学生が15名いた。

5. その他

①学校に対する満足な点（自由記述のまとめ）

人が良い	38
授業内容が良い	37
学風が良い	31
施設・環境が良い	16
全体的に良い	13
ない・無回答	8

ほとんどの学生が良かった理由を述べており、学校生活に対して満足している様子が見える。「人」に関する理由が最も多く、「先生が熱心、親切、面白い」「学生が親切、面白い、個性的」という回答であった。次いで「授業内容」「学風」となった。「授業内容」では、「専門的である」という回答があり、「学風」では、「自由である」という回答が目立った。

②学校に対する問題点（自由記述のまとめ）

ない・無回答	43
授業内容	30
立地	23
施設	12
時間がない	11
人間関係	8
費用	3
その他	1

学校に対する問題点として、「ない・無回答」が最も多い。次いで「授業内容」「立地」となる。「授業内容」に関しては、「グループ作業が多すぎる」「大学入門やことば演習の授業に必要性を感じない」等の回答があった。留学生の日本語能力による問題との関連性は今後精査していく。「立地」では、「虫が多い」「通学が不便」等の回答があり、「施設」では、「階段や坂が多い」という回答があった。「時間がない」は、前述の日本語の勉強についての項目でも挙げられている。

③学校生活に対する要望（自由記述のまとめ）

学業	52
ない・無回答	31
交流	31
人生・生活	9
将来	4
費用	3
その他	2

前項で学校に対する問題点として、「授業内容」が挙がっていたが、全体的な意見では学習意欲を反映したものが多かった。他には、「交流活動」を希望している学生が多く、「人間関係を広げたい」「日本の友人をつくりたい」等の回答があった。また、「人生・生活」では、「生活を楽しむ」等の回答があった。

V. 課題

本調査を通して、本学の留学生の実態とともに以下の課題が見えてきた。

1. 日本語で「論文やレポートを書く」や「専門について議論をする」ことに対して自己評価の低い学生が多いことから、「学習思考言語」能力の向上が必要である。
2. 編入生・研究生は＜日本語＞の授業を履修できないシステムとなっているが、履修希望の学生が多数いる。
3. 日本文化やコミュニケーションを学ぶ機会が少なく、アルバイトや生活で問題を抱えている。
4. 学生から授業で「忙しい」との声が多数寄せられ、課外活動やアルバイト、日本語の勉強にまで手の回らない状況があった。全体として各授業の課題や授業内容のバランスが取れないか。
5. 各部で交流活動や支援を行っているが、重複しているところ及び不足しているところがある。

VI. まとめ

本調査から得た示唆を元に、日本語学修の環境づくり、また留学生と日本人学生の「共修」の場を築いていくために、以下の提言を行う。

「社会生活言語」と「学習思考言語」の違いは前述の通りであるが、「学習思考言語」能力の向上のためには、アカデミックジャパーニーズとして、より専門的な日本語が必要である。具体的な提案としては、現在の総合的な〈日本語〉の授業に加え、〈日本文化事情〉〈日本語コミュニケーション〉〈ビジネス日本語〉等の選択科目を増やしていくことである。なお編入生・研究生の存在も忘れてはいけぬ。履修希望の学生には受講の機会が望まれる。

さらに学生交流を活発にしていく中で、日本語学修支援室内で行っているレポートのチェックや発表の練習などを、留学生と日本人学生との間でも行えるような授業カリキュラムとも連動したプログラムができれば、相互学修の効果も期待できる。

支援体制の上では、日本語学修支援室の周知を促すこと、関係各部、教職員との連携をより深めていくことが必要と思われる。学生からの「忙しい」という声、また各窓口に寄せられた学生の抱える問題も、教職員同士の情報共有で解決できる部分もあるのではないかと考えられる。日本人学生との交流活動も各部との連携でより広範囲且つ専門的に開催できれば効果的ではないだろうか。特に日本での就職希望が増加傾向にあることから、留学生専門のキャリア支援プログラムが必要と考えられる。日本語学修支援室も、日本語の面から指導していきたい。

将来的には、留学生に関連する各部が集結し、予備教育としての「留学生別科」を含めた入学から就職活動までを見届ける「留学生センター」といった形でまとまっていくことができれば、総合的な支援が可能になるとと思われる。

本調査が多文化共生を目指す本学の体制作りの一助となり、このような調査研究が多文化共生社会の構築に些かでも貢献することができれば望外の喜びである。

謝辞

調査にご協力頂いた日本語クラスご担当の先生方々、学修支援センター、国際交流チーム、キャリア支援チーム、教務チーム、また貴重な時間を割いてアンケートとインタビューに答えてくださった学生の皆様に深謝致します。

参考文献・参考サイト

太田晴雄 (1996) 「日本語教育と母語教育—ニューカマーの外国人の子どもの教育課題」『外国人労働者から市民へ—地域社会の視点と課題から』有斐閣。

太田晴雄 (2000) 『ニューカマーの子どもと日本の学校』 国際書院。

金久保紀子・亀田千里 (2004) 「筑波女子大学留学生実態調査報告」『東京家政学院筑波女子大学紀要』
第 8 集。

金沢大学国際機構留学生センター (2015) 「金沢大学における留学生の日本語学習に関する全学アンケート調査報告書」。

東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンターおよび国際連携推進機構 (2016)
「2016 年度東北大学留学生学生生活まとめ」。

和歌山大学国際学生部門 (2016) 「外国人留学生生活実態に関するアンケート調査集計結果」『きのくに』
第 27 号。

山内乾史 (2015) 『学修支援と高等教育の質保証 (I)』 学文社。

Cummins, J (1984) Bilingualism and Special Education, Multilingual Matters.

入局管理局ホームページ

<http://www.immi-moj.go.jp/tetuduki/zairyuu/shikakugai.html>

(2018 年 7 月 31 日アクセス)

注

- 1 人数が特定できないパーティー参加者は省く。
- 2 資格外活動の許可 (入管法第 19 条) 抜粋
 - 1 週について 28 時間以内 (留学の在留資格をもって在留する者については、在籍する教育機関が学則で定める長期休業期間にあるときは、1 日について 8 時間以内) の収入を伴う事業を運営する活動又は報酬を受ける活動

資料

1) アンケート対象者プロフィール

学部	人数	学年	人数
芸術	7	1年生	111
デザイン	34	2年生	1
マンガ	67	計	112
人文	6		
計	112		

2) インタビュー対象者プロフィール

	学年	学部	国籍	インタビュー日時	インタビュー時間
①	1	マンガ	中国	6月13日	約20分
②	1	デザイン	中国	6月22日	約20分
③	1	マンガ	韓国	6月22日	約20分
④	1	芸術	中国	6月22日	約20分
⑤	1	芸術	中国	6月27日	約20分
⑥	1	芸術	韓国	6月28日	約20分
⑦	1	マンガ	韓国	6月29日	約20分
⑧	1	マンガ	中国	6月29日	約20分

3) アンケート調査票

日本語学修支援 アンケート	
学部	年月 (日本語学修期間 年)
名前	
(A) 学習について	② 校内の日本人の友人 ③ 校内の留学生(外国人)の友人 ④ 学外の日本人の友人 ⑤ 学外の留学生(外国人)の友人 ⑥ 指導教員 ⑦ その他の教員 職員 ⑧ 母国の友人・家族 ⑨ 日本にいる家族 ⑩ 相談する人がいない ⑪ その他
問1. あなたが日本に留学した理由は何ですか？ ()	問7. 留学生生活支援のための相談窓口を利用したことがありますか？(いくつでも) ()
問2. あなたの日本語能力はどのくらいですか？あてはまるものをひとつ選んでください。 A ぜんぜんできない B あまりできない C どちらともいえない D まあまあできる E よくできる ① 日本語で日常的な会話をする () ② 日本語で授業の教科書を読む () ③ 日本語で論文やレポートを書く () ④ 日本語で専門について議論する () ⑤ 日本語で講義・模範を理解する ()	① 学生支援チーム ② 国際交流チーム ③ キャリア支援チーム ④ 学生相談室 ⑤ 日本語学修支援室
問3. 日本語の勉強はどうですか？ ()	問8. 問7の相談窓口を利用したことがある人に関する。満足しましたか？ ()
① 特に問題がない ② 適切なレベルのクラスがない ③ 授業とのスケジュールが合わない ④ 勉強する暇がない ⑤ 自分で勉強している ⑥ 日本語の勉強をあきらめた ⑦ 日本語クラスに参加していないが、案はもっと勉強したい ⑧ その他	① 満足した ② どちらでもない ③ 満足していない 問9. 悩みごとがあったとき、カウンセリングを受けようと思いませんか？ () ① 受けようと思う ② 受けようと思わない
(B) 生活について	問10. 問9で「②受けようと思わない」と答えた人は、どうしてですか？(いくつでも) ()
問4. 日本の生活で、困ったことがありますか？ ()	① 慣用による問題 ② 言語による問題 ③ 時間による問題 ④ 自己解決できる ⑤ 相談相手がいる ⑥ 受け方が分からない または知らなかった ⑦ 行くほどではない ⑧ その他
① はい ② いいえ	問11. あなたは将来、日本の企業への就職を希望しますか？ ()
問5. 困ったことは、どれですか？選んでください。(いくつでも) ()	① はい ② いいえ
① 日本語が不十分なため、習い物などが思うようにできない ② 物価が高く、生活が苦しい ③ 日本の食生活に慣れない ④ 日本人の友人ができない ⑤ いいアルバイトができない ⑥ その他	問12. 受講しているクラスに出席していますか？ ()
問6. 困ったことがあるときは、誰に相談しますか？(いくつでも) ()	① 今学期、ほぼ毎回出席している ② 今学期、たいてい出席している
① 学生サポーター	
	③ 今学期、あまり出ていない ④ 今学期、ほとんど出ていない ⑤ 今学期、登録したが一度も出ていない
問13. クラスに出席していない人は、どうしてですか？ ()	問20. あなたの留学のお金は、どこから来ますか？ ()
① 専門の勉強で忙しい ② 日本語がわからない ③ 授業の内容が合わない ④ その他 ()	① 奨学金 ② 自己貯蓄(自分) ③ 家族からの借金 ④ その他 ()
(C) アルバイトについて	問21. そのうち何にお金を使っていますか？
問14. あなたは日本でアルバイトをしていますか？ ()	雑費 () 円 食費 () 円 授業費 () 円 その他 () 円 ⑤ その他
① 現在している ② 以前したことある ③ したことがないが、探している ④ したことがない	問22. この学校に入って良かったことは何ですか？
問15. アルバイトをする時は許可がいることや、してはいけないアルバイトがあることを知っていますか？ ()	問23. この学校に入って嫌だったことは何ですか？
① 知っている ② 知らない	問24. この学校生活に満足することは何ですか？
問16. アルバイトをしている人は、どんなアルバイトですか？ ()	問25. もう少しお話を聞いてもいいですか？ ()
問17. アルバイトをする理由は何ですか？(いくつでも) ()	① はい ② いいえ
① アルバイトをしなければ生活ができない ② 社会勉強のため ③ 生活にゆとりがほしい ④ その他 ()	ご協力ありがとうございました。 このアンケートは楽しかったですか？ () ① はい ② いいえ
問18. アルバイトで困ったことがありますか？(いくつでも) ()	
① なし ② 方言 ③ 敬語 ④ 社会常識 ⑤ 人間関係 ⑥ その他 ()	
問19. アルバイトをしていない理由は何か？(いくつでも) ()	
① アルバイトをしなくても生活できる ② いい仕事がない ③ やりたい時間が無い	

4) 来室者数

